

【教育実践論文(ソニー子ども科学教育プログラム) 審査講評】
2024年度 最優秀校
射水市立片口小学校

「科学が好きな子ども」を「事象や日常生活から問題を見だし、解決に向けて粘り強く探究することを通して自他の幸せを追い求める子ども」と設定し、昨年度の振り返りを生かした3つの視点「心の醸成」「自己調整」「つなぐ環境づくり」を一体化させた研究に取り組まれています。また、教師の役割に「ジェネレーター」という考えを取り入れ、子どもと一緒に楽しむ、感動する関わり方は、新しい教師像を示していただいたものと感じました。

授業実践では、現在の課題、単元目標、子どもの好奇心や興味関心を高める手立てが非常に明確に示されているため、子どもの思考過程や変容の姿がよく分かる優れた内容となっていました。教師の関わり方も非常に丁寧で、子どもたちの学びに合わせた環境づくりや単元計画表の作成などにより「学習計画表」が効果的に活用されており、「AARサイクル」が見事に機能している点を高く評価いたします。

来年度に向けては、これまでの実践を確かなものにするために新たな視点「自分をみつめる」を加え、子ども自身が自分の変容や自然との自分との関わりを振り返ることで学びの質を深めていく計画が立てられています。そのために教師がどのように関わっていくのか、教師観のアップデートにも期待を寄せています。

来年度の「子ども科学教育研究全国大会」に向けて、この姿勢を堅持していただき、粘り強く探究する子どもを育てるために、子どもたちの自発性や思考する力に働きかける見方を土台とした研究の更なる発展に期待をいたします。